国語教育相談室

中学校

特集

新しい学習評価



巻頭エッセイ

言葉には力がある。

稲垣栄洋

国語道場

そもそも「学習評価」って?

書写

毛筆を硬筆に生かすって、どういうこと?

身近な文字を行書で書く指導

93

光村図書

本誌は、文部科学省による「教科書採択の公正確保について」に基づき、
(一社)教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」にのっとって配布しております。

どうも！

来　日する外国人に、日本で必要な言葉を一つだけ教えてくれと言われたら、何を選ぶだろう？――そんな言葉を考えてみるのも楽しい。「すみません」なんかはお礼でもお詫びでも呼びかけでも使える便利な言葉で立派な候補だ。ただ、ふだんの挨拶ではちょっと使えないという欠点がある。朝、出会い頭に「すみません」などと言うと、向こうは呼びかけられたと思ってしまう。

そこでもう一つ考えられるのが「どうも」。「どうも」はお礼でもお詫びでもなんとか使えそうだし、出会いでも別れでも一応の挨拶になる。まことに便利。どうです？昨日か今日、どこかで「どうも」を使っていらっしゃいません？

もっとも、家族などの親しい関係ではあまり使わない（家族関係は人それぞれだが）。子どももあまり言わない。三、四歳くらいの幼児に「どうも！」なんて言われると、ちょっとびっくりしそうだ（お店屋さんごっこなら大丈夫？）。小学校なんかでも、よい子は、「おはようございます」という挨拶はしないように思う。もっとも、程度を強調する「どうも＋ありがとうございます」などは別だ。これなら小学生でも言うことはあるかもしれない。とにかく、「どうも」だけで終わる挨拶はちょっと違っていて、妙にオトナくさくなるのである。

なぜだろう。「どうも」は本来「どう＋も」だが、この副詞には「どうもうまくいかない」「どうも変だ」のような使い方がある。いわば気がかりなことがすっきり収まっていない感情を表すのである。それが「いやはや、どうも何と言っていいか、（ありがとうございます・申し訳ありません）」などというように、感謝、謝罪の気持ちの「そのままでは済ませられないという感情の強調」という使い方になったものと考えられる（その点、気が済まない感を表す「すみません」の発想にも微妙に通じている）。

「いやはや、どうも、何と言ったらいいか、むにゃむにゃ……」というような感じで、いろいろと相手への思いを巡らしていることを表すので、実質的な感謝や謝罪の表現がなくても、「どうも」だけで、そういう気配りが示せる。このよそ行き感が、さらに、出会いや別れの軽い挨拶にもなる。

「どうも」だけだと、実質的な感謝や謝罪の表現がないので、きちんとしたお礼やお詫びにはならない。が、逆に軽い挨拶をするにはぴったりとも言える。出会いや別れなどの場面でも、「さようなら」などと実質的に言わないで、その気配りだけをそれなりに丁寧に表せる。そして、そのような気配りのコミュニケーションをするのは、かなりオトナ的ということなのだろう。

というわけで、「どうも」の奥には、どうもオトナの深い気配りがありそうだ。それじゃ、ここらで。はい、どうも～！

早稲田大学教授　森山卓郎（もりやまたくろう）

CONTENTS

探検！言葉の森42
どうも！
森山卓郎

巻頭エッセイ　言葉と向き合う
言葉には力がある。……02
稲垣栄洋

特集……04
新しい学習評価Q&A
冨山哲也

実践1
自分の学習を「モニタリング」して、学習を自己調整する力を高める
――「魅力を効果的に伝えよう――鑑賞文を書く」（二年）
廿樂裕貴

実践2
ICTを活用した学習評価の工夫
――「メディアを比べよう」（二年）
渡邉光輝

リエコの国語道場……14
そもそも「学習評価」って？
作・画／あべかよこ
監修／甲斐利恵子

全力！コージーのなるほど書写授業……18
毛筆を硬筆に生かすって、どういうこと？
作／藤井浩治
画／ホリグチイツ

書写教育を活性化するために　最終回……20
身近な文字を行書で書く指導
大谷俊彦



表紙・目次イラスト　樋口たつ乃

巻頭エッセイ

言葉と向き合う

言葉には力がある。

植物学者　稲垣栄洋

言われている。

種から葉っぱが生まれるように、心から言葉が生まれるって……すごく、わかる気がする。千年以上も前の言葉なのに、なんとなく今の私たちにも伝わる。言葉というのは、本当にすごいものだ。

同窓会のときだっただろうか、中学校時代の国語の先生が、「おまえは短歌が向いているから短歌をやれ」と言う。私は四十歳を過ぎて、そこそこの地位もあったが、中学校の先生の前では坊主頭のときのままである。それから私は興味もないままに短歌を始める羽目になった。

しかし、短歌をやって気づいたことがある。

「今この瞬間」を永遠に残すとしたら、どのような方法があるだろうか？

例えば、美しい夕暮れを見たときや、赤ちゃんが初めて歩いた瞬間を、どうやって残せば良いだろうか。写真や映像で残す方法は確実である。しかし、フィルムの写真や、ビデオテープは劣化してしまうし、デジタルのデータが永遠であるかもわからない。しかもどんなに映像を忠実に残しても、そのときの自分の感動を未来に伝えることはできない。

ところが、例えば自分の日記を読んだときに、その場面がプレイバックすることがある。同じように、私の下手な短歌でさえも、読み返すと、そのときの情景が思い出されるのだ。言葉にはそんな力がある。

そして、紀貫之の和歌は千年以上前の作者の気持ちを現代の私たちに伝えるのである。

言葉というのは、時空を超えるタイムマシンなのだ。

言葉は「言霊（ことだま）」である。

科学者である私が、こんなことを言ってはいけないのだろうが、私は「霊」の力を信じている。その霊とは「言霊」である。

不安なとき、困ったときも、「大丈夫、大丈夫」と繰り返せば、だんだん大丈夫になってくる。「大したことではない」という言葉を繰り返していると、大したことではない感じになってくる。言葉には世界を変える力があるのだ。

正しく使えば、それは世界を変え、新しい世界を作る力さえもつのだろう。

言葉は恐ろしい。そして、それを使いこなすことは、とてつもなく難しい。

いや、今こそ魔法の言葉を使うとしよう。

だからこそ、言葉はおもしろい。そして、おそらく、そこが言葉のいいところなのだ。

言葉は「言の葉」である。

もともと言の葉は、「言の端」に由来するとも言われている。

古今和歌集で紀貫之は「やまとうたは、人の心を種として、よろづの言の葉とぞなれりける」と詠んだ。人の心を植物の種にたとえ、葉っぱのように言葉が生まれてくるとしたのである。この歌が印象的だったので、「言の葉」という表現が生まれたとも言われている。

私の研究室の学生で「言葉にしたことは叶う（かな）」と豪語している男子学生がいた。気をつけて見ていると、確かに彼は、口に出したことを次々に叶えて、大きな夢に向かって着実に進んでいくように見える。口に出すことで、本人もその気になるし、周りの人たちもその気になっていく。そして、彼が思ったように雰囲気が変わっていくのだ。

言葉には力がある。

私は、科学論文を学ぶ学生たちに、「しかしながら」という言葉は、それまでそれらしく説明したことを一気にひっくり返すことのできるプロレスのバックドロップのような必殺技だと言っている。言葉には、世界をひっくり返すような力がある。言葉の力を使うと、世の中がひっくり返る。

例えば、「だからこそ」。

「困ったことになった、だからこそ、おもしろい。」

他にも必殺技はある。

「やりたくない、にもかかわらず、やるのだ。」

「思うようにならない、そこがいいんだよね。」

こんな言葉を使っていると、何だか困難続きの私の毎日が、そのうちドラマ化されるのではないかという気にさえなる。

言葉は人を勇気づけたり、力づけたりする。しかし、あるときそれは……人を傷つける。

私はサラリーマン研究者から大学の教員になったこともあり、学生に気軽に軽口を叩（たた）いていた。しかし、学生にとって教授の言葉というのが、ときにはあまりに重い存在であることに気がつき、おののいた。何気なく放った言葉で、学生たちは輝いたりもするし、へこんだりもする。言葉というのは「諸刃（もろは）の剣（つるぎ）」だ。

なんという恐ろしいアイテムを私は身につけてしまったのだろう。

魔法の剣や、秘密の呪文であれば、使わずに平凡に生きていくこともできるが、言葉は使わないわけにはいかない。

言葉には力がある。そして、私たちは言葉をもっている。



稲垣栄洋（いながきひでひろ）

1968年静岡県生まれ。岡山大学大学院農学研究科修了。農学博士、植物学者。農林水産省、静岡県農林技術研究所等を経て、静岡大学大学院教授。専門は雑草生態学。農業研究に携わるかたわら、雑草や昆虫など身近な生き物に関する著述を行っている。著書に『面白くて眠れなくなる植物学』（PHP文庫）、『身近な雑草の愉快な生きかた』（ちくま文庫）、『生き物の死にざま』（草思社）、『大事なことは植物が教えてくれる』（マガジンハウス）など多数。光村図書中学校『国語』1年「ダイコンは大きな根？」筆者。

特集

新しい学習評価

学習指導要領の改訂に伴い、
学習評価の方法・内容も変わりました。
今号の特集では、「新しい学習評価」について
冨山哲也（とみやまてつや）先生（十文字学園女子大学教授）に
解説していただくとともに、
実践例をご紹介します。

お答えします！



冨山哲也先生

イラスト　秋葉あきこ

Q1 評価の何が変わったのでしょうか。



生徒につけたい力を明確にして指導し、その力が身についたかどうかを評価する、という基本的な考えは変わりません。そのうえで、次の三点がより重視されるようになりました。

①全教科等で共通して示された、「資質・能力」の三つの柱に即して観点別に評価する。

⬇従来行われていた五観点の評価から、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の三観点の評価に変わりました。（図1）

②「つけたい力」を端的に示した「指導事項」に即して評価する。

⬇学習指導要領に示された指導事項の文言をそのまま使って評価規準とし、具体的な学習に即して、「おおむね満足できる」状況（B）の例を想定して評価する考えが示されました。

③学びを人生や社会に生かそうとする態度を育てて、それを評価する。

⬇「主体的に学習に取り組む態度」の評価に関する考え方が示されました。（Q5参照）

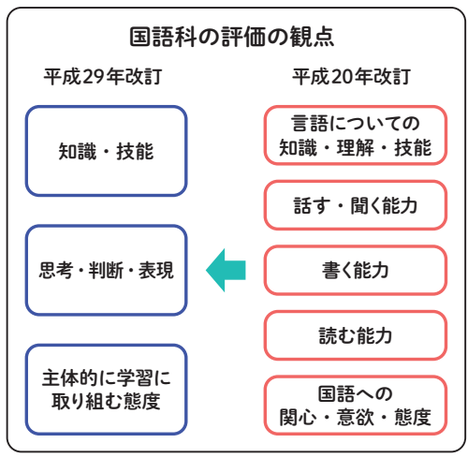


図1

Q2 「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の重みづけ（バランス）はどのように考えればよいでしょうか。



基本的には、三つの観点は等価値です。

三観点の重みづけ（バランス）については、教育委員会等でルールを定めているところもあります。その場合には、それに従ってください。

もし重みづけを行うならば、その理由を明確にする必要があります。例えば、生徒や学校の実態から〔思考力、判断力、表現力等〕を特に重視したいので、「思考・判断・表現」の評価に重みをつけるといったことです。ただ当然のことながら、**評価の前に、まずは年間指導計画を工夫する必要があります。**観点の重みづけを行うか否かは、そのうえで検討するようにしましょう。

三観点の重みを等分にすると、「知識・技能」の評価の根拠を「思考・判断・表現」ほど集められないという声もあります。文法や漢字の教材で取り立てて評価するだけでなく、**各領域の学習の中でも「知識・技能」を指導・評価することが大切**です。領域の学習と関連づけることで、必然的に「知識・技能」の学習が増えますので、他の二観点と比べて評価の機会が不足することはないでしょう。

Q3 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」は、「思考・判断・表現」という一つの観点として評価することになりました。各領域の評価は、どのように考えればよいでしょうか。

国語科では、平成十年版の学習指導要領から「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の**三領域を設定し、各領域の力を伸ばす指導**を行ってきました。それは、今回も変わりません。

『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【中学校国語】』（国立教育政策研究所・令和二年三月＊以下『参考資料』）には、「思考・判断・表現」の評価規準の設定のしかたとして、「〔思考力、判断力、表現力等〕の指導事項の冒頭に、指導する一領域を『（領域名）において、』と明記し」とあります。**領域名を明記することで、どの領域の力をつけようとするのかが明確に**なります。

各教材はいずれかの領域の学習を中心とし、先生方は教材ごとに学習状況を評価していくわけですから、その手元には領域別の評価資料が蓄積されていくことになります。（図2）

必要があれば、蓄積した資料を基に、生徒や保護者に、領域別の学習状況に関する情報を提供することもできるでしょう。



Q4 「十分満足できる」状況（A）、「おおむね満足できる」状況（B）、「努力を要する」状況（C）の姿は、具体的にどのように想定すればよいでしょうか。

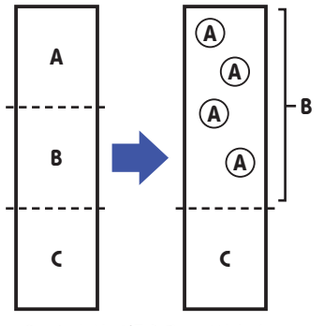
評価にあたっては、**「おおむね満足できる」状況（B）の姿を明確に設定することが基本**になります。この姿に基づいて生徒の様子を見ていくと、**その姿に達していない生徒**が明らかになります。つまり、**「努力を要する」状況（C）の生徒**です。ですから、Cの状況を具体的に設定する必要はありません。その代わり、Cの生徒にどのような指導を行うかという「手立て」を考えておくことが必要です。

では、Aはどう判断すればよいでしょうか。

私は、**AとBは明確な線を引いて区別できるものではない**と考えています。Bの中にさまざまな状況のAがあるというのが実態ではないでしょうか。（図3）

一つの考え方として、『参考資料』の事例1が参考になります。この事例では、三観点に共通する**「Aと判断するポイントの例」**として、**「速やかさ、丁寧さ、集団への寄与、興味の広がり、応用・活用の意識など」**を挙げ、Bの状況の中から、さらにこれらのいずれかを満たしているものをAと判断しています。





3層に分けて捉えるのではなく、Bの中にさまざまなAがあると捉える。

図3

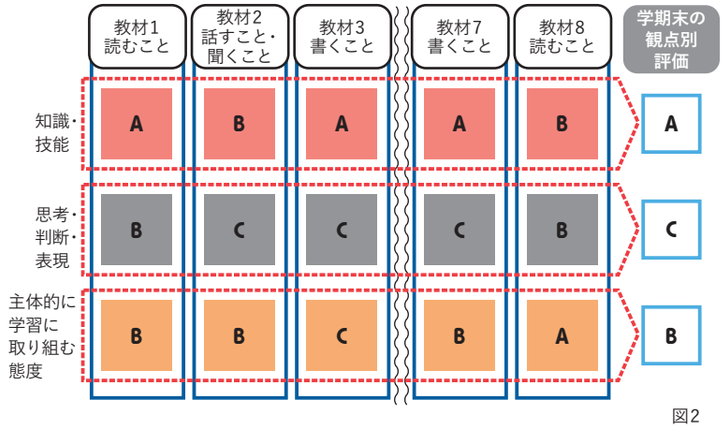


図2

Q5 「主体的に学習に取り組む態度」は、どのように評価すればよいのでしょうか。

「主体的に学習に取り組む態度」は、生徒が自分のこととして学習課題に取り組むとともに、学習したことを生活や人生に生かしていくために必要な資質・能力です。この資質・能力を発揮するためには、**自分の思考や行動を客観視する、いわゆる「メタ認知」が必要**になります。「丁寧にノートを取っている」「積極的に発言している」など、性格や行動面の傾向を評価するものではないことに十分留意する必要があります。

具体的には、**生徒の「粘り強さ」と「自らの学習の調整」の二つの側面を見る**ようにします。

「粘り強さ」とは、例えば、少々困難なことでもあきらめずに取り組んだり、一度答えを出したことでもさらに考えを深めてみたりしている様子といえるでしょう。一方、「自らの学習の調整」とは、学習の見通しをもったり、学習の進め方を変えたり、学習したことを振り返って価値づけたりしている様子といえるでしょう。このような様子を、観察したり、振り返りの記述から読み取ったりして評価します。

「主体的に学習に取り組む態度」を評価するためには、**学習の中で「粘り強さ」や「自らの学習の調整」を発揮させたい場面をまず設定することが大切**です。例えば、教科書一年「項目を立てて書こう　案内文を書く」の授業では、案内文に書く情報を集め整理する場面で「粘り強さ」を、相手を意識して表現を工夫しながら文章を書く場面で「自らの学習の調整」を発揮させるようにします。**ワークシートに、情報の整理の過程を残させたり、自らの工夫の意図を説明させたりして評価**するとよいでしょう。

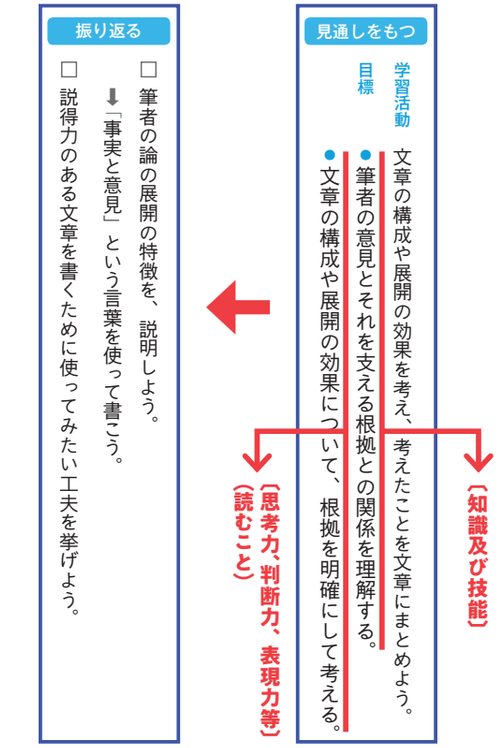


Q6 教科書や学習指導書では、どんな形で評価規準や手立てが示されていますか。



教科書

三領域の教材には、〔知識及び技能〕〔思考力、判断力、表現力等〕の目標を明示し、「振り返る」には「何ができるようになったか」を自分の言葉で書く設問を設けました。**理解したことを言語化**したり、**他の場で活用（転移）**したりすることで、**「思考・判断・表現」**の資質・能力を定着させます。この設問は、生徒が自らの理解の状況を振り返ることにもつながり、**「自らの学習の調整」を見取る材料にも**なります。

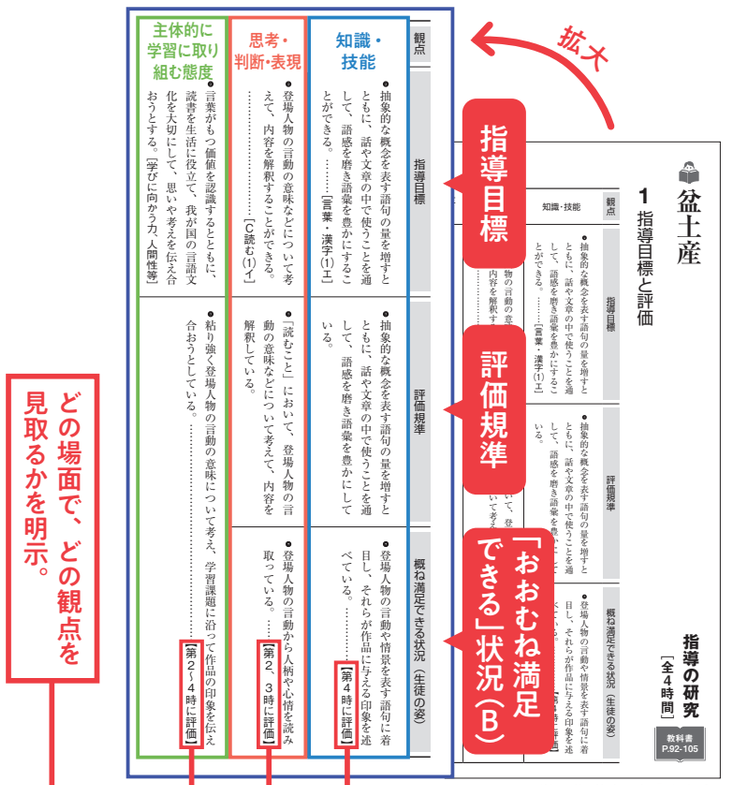


教科書1年「『言葉』をもつ鳥、シジュウカラ」学習（手びき）

学習指導書

三領域の教材の**「指導目標」「評価規準」**は、『参考資料』に示された評価例に合わせて、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の**三観点で**示しています。また、「『おおむね満足できる』状況（B）」を具体的な生徒の姿として示しました。

指導計画の**どの場面で、どの観点を見取るかを焦点化**し、展開例では評価の観点と方法、Bに到達させるための手立てを示しています。



学習指導書2年「益土産」

新しい学習評価のために

十文字学園女子大学教授　冨山哲也

新しい学習指導要領は、生徒が「何ができるようになるか」という資質・能力を明確にして改訂されました。国語科で育成を目ざす資質・能力は、各学年の指導事項に端的に示されています。授業づくりにあたっては、当該学年で求められている資質・能力を確認し、その学年に応じた力をつけていく必要があります。例えば、スピーチという言語活動は小学校でも行いますが、中学校でのスピーチは、中学校の指導事項に応じた資質・能力が発揮された、より高い水準のものでなくてはなりません。これが実現されるためには、指導事項から評価規準を設定したうえで、「おおむね満足できる」状況（B）の姿を想定して評価し、その結果を指導にフィードバックすることが大切です。

また、生徒が生涯にわたって学び続けていけるようにするためには、「学びに向かう力、人間性等」を育てていくことが不可欠です。「学びに向かう力、人間性等」は、授業においては「主体的に学習に取り組む態度」の観点で評価します。この態度は、教師の説明を受け身で理解する授業や、教師が示したスモールステップをこなしていく授業だけでは育成することができません。生徒が自ら学習の見通しをもち、試行錯誤して課題を解決し、その学習過程を認識するような授業――すなわち「主体的・対話的で深い学び」の実現を目ざした授業が必要です。

指導と評価の一体化ということが言われますが、当然のことながら、評価が先にあるわけではありません。ねらいを明確にした指導を行い、その結果を評価します。ですから、評価の考え方やその方法は、シンプルでわかりやすいものが望まれます。ICTの進歩により、評価にICTを活用する実践も増えてきています。新しい学習指導要領の本格的なスタートに合わせて、評価についてもさまざまな実践が行われることを期待します。



冨山哲也

東京都出身。十文字学園女子大学教授。公立中学校教員、東京都指導主事、文部科学省教科調査官等を経て平成27年4月から現職。平成29年版学習指導要領等の改善に係る検討に必要な専門的作業等協力者（中学校国語）。「評価規準、評価方法等の工夫改善に関する調査研究」協力者。

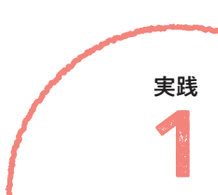
著書に、『中学校新学習指導要領　国語の授業づくり』（明治図書）、『ワークシート＆テスト問題例が満載！　中学校国語新3観点の学習評価完全ガイドブック』（同）、『単元を通して課題解決をめざす言語活動プラン15　中学校国語科』（東洋館出版社）など。

実践 1

自分の学習を「モニタリング」して、学習を自己調整する力を高める

――「魅力を効果的に伝えよう――鑑賞文を書く」（二年）

埼玉大学教育学部附属中学校教諭
廿樂（つづら）裕貴（ゆうき）



「感覚を言葉に――名画の鑑賞文を書こう」（二年・全四時間）

授業の流れ

一時間目
- 鑑賞文のモデル（教師作成）を読み、学習の見通しを立てる。
- 美術の教科書や画集から好きな名画を選び、鑑賞の観点を明確にする。

二・三時間目
- 適宜インターネットの類語検索や連想語検索を行いながら、ノートパソコンを使い、鑑賞文を書く。

四時間目
- 鑑賞文を印刷し、互いに読み合う。
- 特に表現の工夫が感じられたところを指摘し合う。
- 単元を振り返る。

【評価規準】
- 類義語と対義語などについて理解し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。［知・技（1）エ］
- 「書くこと」において、表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。［思・判・表B書く（1）ウ］
- 粘り強く語感を磨き、語彙を豊かにし、学習の見通しをもって、鑑賞文を書こうとしている。［主体的に学習に取り組む態度］

本単元では、「主体的に学習に取り組む態度」の評価を、特に類義語などに着目して語彙の量や質を獲得しようとしている姿で見取ることにしました。一つの文章の中で、同じ単語を重複して使用する生徒が一定数見受けられたからです。そして、［知識及び技能］を習得するために、自らの学習状況をモニタリングし、学習の進め方を試行錯誤するなどして学ぼうとしているかどうかを把握することにしました。

ここで活用するのが、一枚ポートフォリオ（One Page Portfolio sheet 以下、OPPシート）です。こちらを使用して、生徒が自らの学習を自己評価できるようにしました。授業の各回の最後に「学習履歴」として、「今日の授業で一番大切だと思ったこと」を問うようにしています。

図1は、「青い朝顔、ニューメキシコII」（ジョージア・オキーフ）という名画を選んだ生徒のOPPシートの一部です。この生徒は、つけたい力である、語感を磨き語彙を豊かにすることについて、類語や連想語に注目して、自らの学習を自己評価しています。

二時間目では「類語以外でも、青いを連想した言葉も使えるということ。」とし、「青」という単語の言い換えだけでなく、「青」を連想させる言葉を用いることで、自分の伝えたいことを印象深く伝えられることに気づいたのがわかります。

次の三時間目では「全ての単語をむやみに類語辞典などで考えてかいてしまうと、逆に読む人に伝えたい事が伝わらなくなってしまう。」と記述しています。鑑賞文を読む相手を意識しながら、目的をもって類語を使用することの大切さを発見できたことが見て取れます。ここから、粘り強く類語を収集し、文章の中で使おうとしていることと、試行錯誤しながら類語の適切な使用のしかたについて考えようとしていることが認められるため、「おおむね満足できる」状況（B）と判断しました。さらに、鑑賞文の読み手への配慮も高まっていることがわかり、応用の意識が見られたことから、「十分満足できる」状況（A）としました。

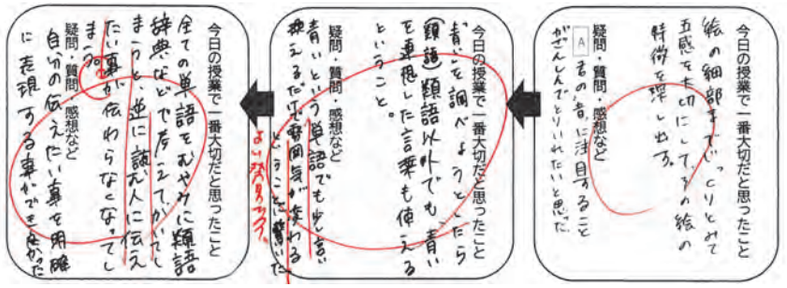


図1

このように、生徒が「自己評価」の記述を見返しながら振り返りを行うことで、「主体的に学習に取り組む態度」を評価することができ、学習に取り組む態度」を評価することができ、それが効果的な資質・能力の育成に寄与していることがわかります。「疑問・質問・感想など」の欄の記述は任意ですが、一時間目の記述からは、他の生徒の気づきや語彙についての発見などについて言及し、次時に向けて自らの学習を改善していこうとする姿勢が見て取れます。教師はOPPシートを回収し、線を引いたり、短いコメントを付したりしてフィードバックを行いました。授業内では、個人の疑問や質問を取り上げて全体で課題を共有する場を設定するなどして、生徒の学習改善につながるように意識しています。なお、国語科のOPPシートには、「この単元で言葉について学んだことを書こう」という欄を継続して設けることで、その時々の言葉についての認識を自覚させ、生徒自身の言葉による見方・考え方が高まっていくようにしています。

先ほどの生徒の鑑賞文の一部を紹介します。

> 一瞬で見物人をこの絵に引き込む、凛としてたくましくも見える二輪の花が、何と言っても魅力的である。
>
> この絵の凛とした静の雰囲気を一番に伝えているのが、鮮やかに発色している瑠璃色だ。使われている色の種類は少ないからこそ、瑠璃色の濃淡を変え朝顔を巧みに引き立たせている。そればかりか、絵に統一感を出すように背景の色も空色がかったものにしている。しかし、花の影になる部分は紺色だ。徹底的に青で勝負する作者の意図がうかがえよう。（略）

言語活動中に自分の学習をモニタリングする。この機会の有無が、生徒の主体性を大きく左右するでしょう。新学習指導要領全面実施から半年が過ぎました。目の前の生徒が「主体的に学習に取り組」んでいる姿とはどういったもので、それはどのようにすれば伸ばすことができるのか。さまざまなアプローチを試しながら、いっしょに考えていきましょう。

〈参考文献〉『新訂 一枚ポートフォリオ評価OPPA 一枚の用紙の可能性』（堀哲夫 東洋館出版社・二〇一九年）

実践 2

ICTを活用した学習評価の工夫

―「メディアを比べよう」（二年）

お茶の水女子大学附属中学校教諭
渡邉（わたなべ） 光輝（こうき）



「メディアとの上手な付き合い方――デマを捕まえろ」（二年・全七時間）

授業の流れ

一時間目
・「『自分で考える時間』をもとう」（教科書二年P64）を通読し、感想を書く。
⇩内容確認小テストを行う。

二時間目
・メディア（テレビ・新聞・インターネット）の特性をスプレッドシートに整理する。

三～五時間目
・四人グループでデマについて分析し、スライドを共同制作する。

六時間目
・個人で「メディアとの付き合い方三か条」とその解説を考える。

七時間目
・ゲストティーチャー（元新聞記者）による特別授業（オンライン）。新聞記者の「メディアとの付き合い方三か条」。
・四クラスの「三か条」を読んでのコメントと授業者との対話。

【評価規準】
・情報の信頼性の確かめ方を理解し使っている。［知・技二年（2）イ］

評価方法 内容確認小テスト、メディアの特性をまとめたスプレッドシート、定期テスト
・「読むこと」において、目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、内容を解釈している。［思・判・表C読む（1）イ］

評価方法 デマについての調査、定期テスト
・メディアとの付き合い方について、積極的にその特性を踏まえて、情報を適切に吟味するための具体的な手立てを考え、今後に生かそうとしている。［主体的に学習に取り組む態度］

評価方法 「メディアとの付き合い方三か条」

ICTを活用した評価の工夫

【知識・技能の評価事例】内容確認小テスト

文章の理解度を確認する小テストでICTを活用しました。Google[*1]フォーム（図1）で問題を作成すると自動採点され、即座に結果が示されます。何度も繰り返し問題に挑戦することが可能なので、テスト本番まで、事前に問題を解くことができる状態にしておき、練習に取り組ませました。ただし、練習用の問題では採点結果のみ表示し、模範解答は伝えません。生徒は全問正解するまで、何度もチャレンジしていました。教師は、間違いの多い解答の傾向をつかみ、授業に反映させました。

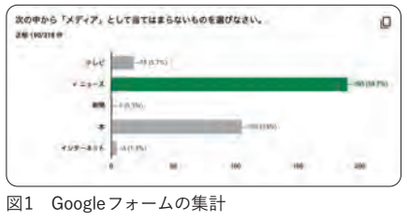


図1　Googleフォームの集計

*1 アンケートフォームなどを簡単に作成できる無料ツール。

【思考・判断・表現の評価事例】

「メディアとの付き合い方三か条」と解説を書く

「三か条にまとめ、その解説を書く」というパフォーマンス課題を設定し、Google[*2]**クラスルーム**を使って提示しました。課題には、「ルーブリック」を設定することができます。四段階の評価規準を生徒に提示し、それを参照して、これまでの学習を踏まえたまとめを作成しました。Googleクラスルームを使えば、全ての生徒が作成しているデータが同期され、教師もリアルタイムで課題の作成状況を見ることができます。授業時には、文章にまとめていく過程を捕捉しながら、行き詰まっている生徒に適宜個別指導を行い、ヒントを与えるなどの支援をしました。簡単な注意やアドバイスも、その場にいなくてもコメントで書き込むことができました。

*2 オンライン学習システム。クラスの管理や課題の作成、共有などが可能。

【定期テストでの評価事例】

デジタル採点ソフトの活用

定期テストの採点は**デジタル採点ソフト**（図2）を使っています。このソフトは紙の解答用紙をスキャンし、設問ごとに切り取って、同一の問題を一気に採点することができます。記号問題は文字認識で採点可能ですが、記述問題については、一つ一つ目視で採点する必要があります。ただし、同じ設問の答えが並べられるので、複数の生徒の解答を見比べながら採点することができます。採点後には、どの問題ができて、どの問題は不正解であったのか、データとして集約されます。設問ごとに全体の傾向を捉えることができると同時に、個別にも解答状況をつかみ、支援をすることが可能です。

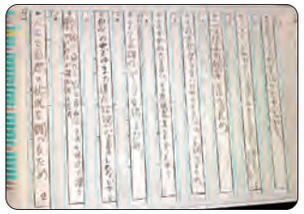


図2　デジタル採点ソフトの採点画面

ICTができること、できないこと

ICTの長所として、次のようなことが挙げられます。

①オンラインテストの自動採点など、データ処理の省力化・自動化が図れる。
②データの集約機能により、個人単位でこまやかな情報が収集できる。
③全体の傾向も簡単に捉えることができる。
④Googleクラスルームなどを使ったデータ共有により、生徒の学習状況をリアルタイムで捉え、支援できる。

ICTを活用することで、これまで以上に個に応じた学習状況の把握や支援をすることが可能になりますが、ICTはあくまで「見たいものを見る」「集めたいデータを集める」ときにのみ、威力を発揮するツールです。生徒がパソコンに向かってキーボードをたたいた「結果」を、効率的に把握することができるツールにすぎません。「キーボードをたたく前」の生徒の思考や資質・能力は、どんなツールでも捉えることは不可能でしょう。

このようなICTツールの効果と限界をよく理解したうえで、どのような切り口で学習課題を設定し、どのように学習状況を捉えて支援をし、どう観点を設定し価値づけして評価をするか、これまで以上に綿密に評価規準や評価方法を吟味することが必要となるでしょう。また、集められたデータの解釈も含む、教師の見取りの精度が求められると考えます。さもなければ、ツールに振り回されることにもなりかねません。

そもそも「学習評価」って？

作・画／あべかよこ　監修／甲斐利恵子

















甲斐利恵子 かいりえこ
福岡県生まれ。軽井沢風越学園教諭。専門は国語科単元学習。光村図書中学校『国語』教科書の編集委員。











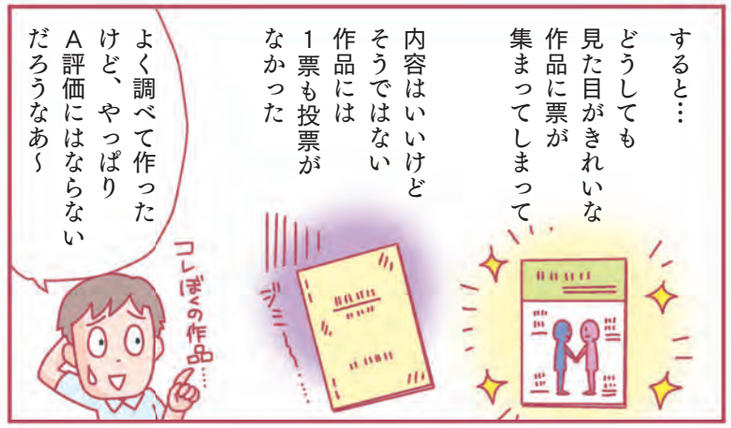




































私たちの仕事の根本を支えるのは、「子どもを知ること」です。一人一人の子どもが見える授業を作ること。そして、一人一人の学びを具体的な言葉にして励ますことが「評価」の大切な役割だと思います。子どもの学びに寄り添い、子どもをしっかり見ていきましょう！

全力！コージーのなるほど書写授業

Vol.1 毛筆を硬筆に生かすって、どういうこと？

作／藤井浩治　画／ホリグチイツ



藤井浩治 ふじいこうじ

元広島県尾道市立御調西小学校校長。2008年度まで広島県尾道市立土堂小学校に勤務。陰山英男校長在籍の3年間、教務主任として土堂改革に取り組み、数々の成果を上げる。光村図書 小学校・中学校『書写』教科書編集委員。

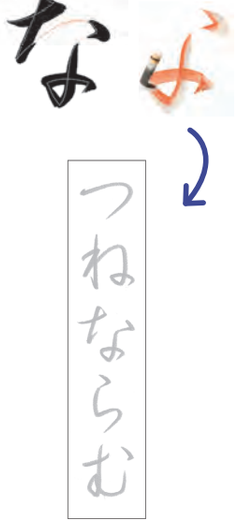
Q 毛筆のどんなところが硬筆に生きるの？

A

①「とめ」「はね」「はらい」などの点画の特徴をつかみやすい！



②硬筆では捉えにくい筆脈がよくわかり、次の画へのつながりを意識できる。その結果、自然と字形が整う！



Q 教科書を、どう使えばいいの？

A

①毛筆で字形の特徴に気づかせよう！



②「書写ブック」の硬筆教材を使って学習したことを定着させよう！



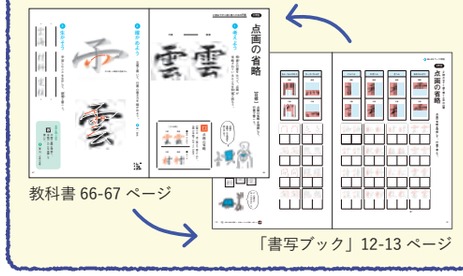
③学習したことを他の文字にも応用させよう！



毛筆で学習したことが、どんどん広がっていく〜！



光村「中学書写」の「書写ブック」は、毛筆と硬筆の一体的な学習にピッタリ！



子どもたちを「書写好き」に……熱い思いでコージーは次の学校へ……



連載
最終回
書写教育を活性化するために

身近な文字を行書で書く指導

高知市立城東中学校　校長　大谷俊彦（おおたにとしひこ）



新しい学習指導要領の理解



まず初めに、今年度から全面実施となった新学習指導要領の書写に関する事項を抜粋して示すので、第一学年の「知識及び技能」について、再確認したい。

（ア）字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書くこと。

（イ）漢字の行書の基礎的な書き方を理解して、身近な文字を行書で書くこと。

身近な文字を行書で書く指導とは？



この「身近な文字を行書で書くこと」について、「中学校学習指導要領解説　国語編」では、次のように示されている。

漢字の行書の基礎的な書き方とは、直線的な点画で構成されている漢字を、点や画の方向及び丸みを帯びる場合があること、点や画の形が変わる場合があること、点や画が連続したり省略されたりする場合と、点や画が連続したり省略されたりする場合があること、筆順が変わる場合があることなどといった行書の特徴を伝統的な文字文化とも関連させながら理解して書くことを意味している。

身近な文字を行書で書くとは、そうした行書の基礎的な書き方を理解し、学習や生活の中で使用頻度の高い語句などについて書くことである。

学習や生活の中で使用頻度の高い身近な文字とは、どのような文字が思い浮かぶだろうか？

真っ先に思い浮かぶのは自分の名前や住所、家族の名前や学校名などではないだろうか。こうした身近な文字を正しく行書で書けるようになることが求められているのである。



自分の名前を行書で書こう！



ここで、「自分の名前を行書で書こう！」という実践例を紹介したい。

行書で書くためには、行書の特徴を知る必要がある。教科書で「丸み・点画の連続」「点画の変化」「点画の省略」「筆順の変化」など、行書の特徴をすべて学習した後に、この課題に取り組ませることとした。



1960年、高知県生まれ。県学校教育課指導主事、文部科学省主幹などを経て現職。光村図書小・中学校書写教科書編集委員。著書に『「学校経営マンダラート」で創る新しいカリキュラム・マネジメント』（ぎょうせい）など。

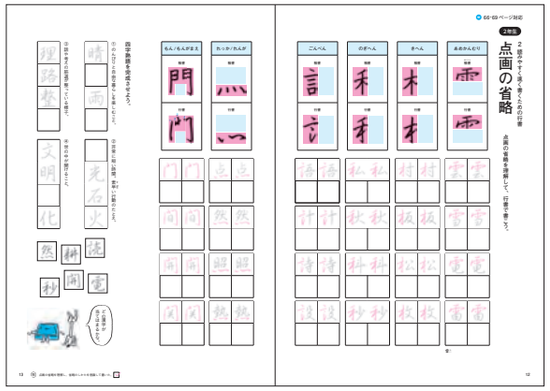
【授業の流れ】

導入　行書学習の法則を使って、芸能人の名前を行書で書こう。

展開　書写ブックを使いながら、自分の名前を行書で書こう。

終末　家族や友達の名前、学校名、住所を行書で書こう。

導入では、嵐の「松本潤」という文字を行書で書くために、書写ブックを使い考えることにした。芸能人の名前を使うことで、書写の学習が一気に身近なものになってくる。



「書写ブック」（硬筆練習帳）P12-13「点画の省略」

「松」は、「点画の省略」（P12－13）に掲載されており、「きへん」の行書が示されている。「本」については、「点画の変化」（P10－11）に「右払い」の変化が示されている。「潤」については、「部分別に練習しよう」（P16－17）に「さんずい」の行書が、「点画の省略」には「もんがまえ」の行書が、「部分別に練習しよう」には「おうへん」として「王」の行書が示されている。このように既習の知識や行書の法則性を使えば、「松本潤」という文字を行書で正しく書けるのである。



次に、導入と同じ方法で、書写ブックを使いながら、自分の名前を行書で書く学習を行った。各自、自分の名前の文字を分解したり、組み合わせたりしながら、行書の書き方について調べていった。早く終わった生徒には、家族の名前や友達の名前、学校名や住所を行書で書く課題を課すこととした。

授業後の生徒の感想には、「行書で自分の名前が正しく書けるようになり、少し大人になった気がした。」「家に帰って、親に、正しい行書の名前の書き方を教えてあげたい。」「一生使う自分の名前なので、これからも正しく行書で書いていきたい。」とあった。「深い学び」が求められている今、できなかったことができるようになる喜びと、授業での学びが生活に役立つことを、生徒が実感できる授業になったようだ。

終わりに



中学校の書写教育については、第一回（90号）でも述べたとおり、授業時数が十分に確保されていない現状がある。こうした必然性のある書写授業を実施することが、現状の改善につながると考えている。書写の配当授業時数を再確認のうえ、適切な指導をお願いしたい。

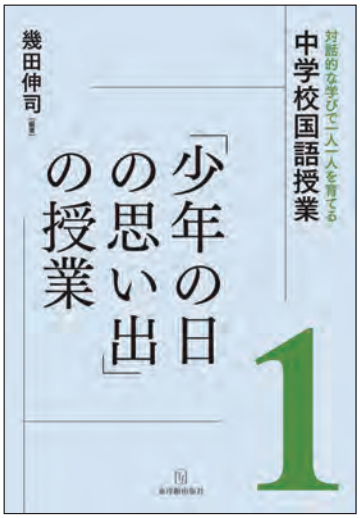
【本連載は今号が最終回となります。ご愛読ありがとうございました。】

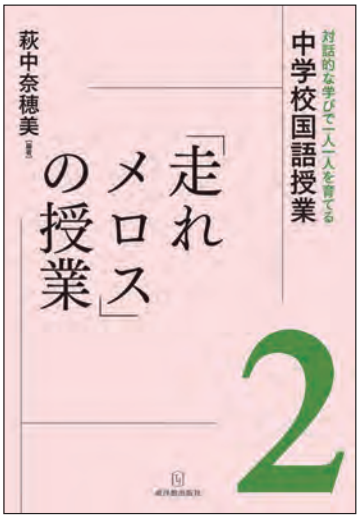
イラスト　長場 雄

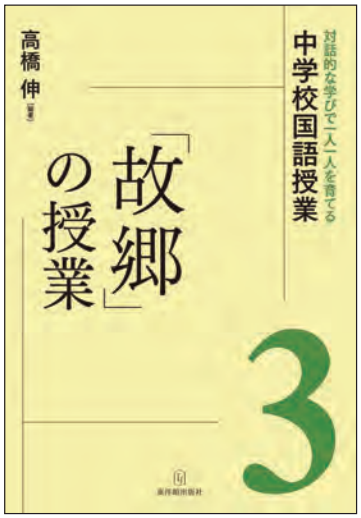
対話的な学びで一人一人を育てる

中学校国語授業

「少年の日の思い出」「走れメロス」「故郷」







新学習指導要領の趣旨をふまえ，生徒同士の対話や学び合いを取り入れ，理解を深めていく国語科授業を紹介。

詳細はこちら！

「対話的な学び」をキーワードに，中学校国語科における定番教材「少年の日の思い出」「走れメロス」「故郷」の授業を紹介。各教材6点の実践が掲載されているので，オーソドックスな展開から研究授業で行いたいものまで，それぞれの学級の実態に合ったものが見つかります。

「少年の日の思い出」/ 幾田伸司 [編著] / B5判・80 ページ / 税込 1,760 円 / ISBN9784491045160

「走れメロス」/ 萩中奈穂美 [編著] / B5判・80 ページ / 税込 1,760 円 / ISBN9784491045177

「故郷」/ 高橋伸 [編著] / B5判・80 ページ / 税込 1,760 円 / ISBN9784491045184

東洋館出版社
〒113-0021　東京都文京区本駒込5丁目16番7号
TEL: 03-3823-9206　FAX: 03-3823-9208
URL: https://www.toyokan.co.jp

中学校　国語教育相談室　通巻 NO.197　2021年9月14日発行

発行人　吉田直樹
発行所　光村図書出版株式会社
東京都品川区上大崎2-19-9 〒141-8675
電話：03-3493-2111
www.mitsumura-tosho.co.jp
E-mail:koho@mitsumura-tosho.co.jp

印刷所　加藤文明社
デザイン　望月昭秀＋林真理奈（NILSON）

個人情報の取り扱いに関しては、弊社「個人情報保護方針」にのっとり、適切な管理・保護に努めてまいります。詳しくは、光村図書ウェブサイトをご覧ください。広報誌の配送停止をご希望の方は、光村図書出版までご連絡ください。

光村図書